

# 音楽科 学習指導案

日時 平成17年9月27日(火)5校時  
学級 3年2組(男子20名 女子18名 計38名)  
場所 第1音楽室  
授業者 田鎖千佳子

1 題材名 みんなで創る混声合唱(教材曲 「走る川」 金沢智恵子作詞 黒澤吉徳作曲)

2 題材について

(1) 教材観

合唱活動と直接関連する内容として、学習指導要領ではA表現(1)、ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」イ「曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」エ「声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること」キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」の5つが示されている。3年生の2学期は、中学校3年間の義務教育の最終段階である。これまでの3年間の合唱への取り組みを通じて生徒達はこれらの表現に関わる学習をつみかさねてきている。

本題材ではこれまでの学習内容を生かしつつ、合唱ならではの集団による音楽活動を通し、より素晴らしい音楽を学級のみならず創って行く喜びや充実感を生徒に味わわせることをねらっている。

この教材は、変化に富んだテンポや転調、言葉を生かしたリズム、効果的なピアノ伴奏など、多様な要素を含んでいる。また、生徒達が共通したイメージを持ちやすく、色々な工夫を考えやすいという特性もあると考える。一つの曲をよく知り、工夫し、その効果的な表現を目指して練習を重ねて行くことで、みんなで音楽する楽しさ、充実感を感じることに適していると考え、この教材曲を設定した。

(2) 生徒の実態

これまでの学習の中で生徒達は色々な合唱曲に取り組んできたが、多くの曲がテンポが一定に流れる曲ばかりである。この曲のように歌詞の内容や場面により、リズムやテンポが変化していく曲にはなじみが薄く、それに伴う表現力、歌唱力も未だ十分ではない。また、楽譜を見ずに単に聞き覚えで歌ったり、教師の指示のとおり歌えばよいと消極的に考えたりする生徒も多く、自分の意志を持って表現を工夫することにつながっていない。

この曲は見中祭合唱コンクールの学級の自由曲として生徒が選曲したものであり、難しい曲にチャレンジしようという意気込みが感じられる。男子には歌うことへ抵抗感を持っている生徒が多く、声や表情が暗い。女子の中には音楽経験が豊富で、よいセンスを持った生徒もいるので、練習の中にうまく生かしながら、指導を進めていきたい。

(3) 基礎・基本の定着

本題材における基礎・基本は教材曲の持っている諸要素を理解した上で、曲の良さや美しさを感じ取りながら、自分たちのイメージ演奏の中に生かして表現することである。

学習を進めるにあたっては、曲のイメージを明確にし、そのイメージが聴いている人に伝わるような演奏ができることを目指して進めていきたい。そしてこの曲の諸要素を理解し、どのように表現するのがふさわしいのかを生徒達と考えて行きたい。

表現要素の特徴がわかりやすいように、相対的な表現を意識させたり、形や色でイメージ作りをして生徒がイメージをわかりやすく視覚的に訴えるなどの工夫をしながら進めていきたい。

3 題材の目標

(1) 生徒が持つ曲のイメージと曲の諸要素の働きや歌詞の内容を関連づけながら表現の工夫をし、より良い混声合唱を創る

4 題材の評価規準と評価計画・指導計画

時間	評価規準	関心意欲態度	表現の工夫	表現の技能	観賞の能力
		指導計画			
		(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成に関心を持ち自分のイメージや感情を生かして歌唱表現することに意欲的である。 (2) 演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心をもち、合唱表現することに意欲的である。 (3) 表現要素の働きによって生み出される曲想の変化を理解して曲全体を聴き取っている。	(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成に関心を持ち自分のイメージや感情を生かして歌唱表現を工夫している。 (2) 演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫している。 (3) 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを知覚し、それらを生かした表現を工夫している。	(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成を理解し、自分のイメージや感情を生かして歌唱表現する技能を身に付けている。 (2) 演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現する技能を身につけている。	(1) 表現要素の働きによって生み出される曲想の変化を理解して曲全体を聴き取っている
1	曲のイメージを考えながらパートの音を覚える	(1)			
2	曲のイメージを考え曲にあった強弱を設定し、歌い方を工夫する	(1)	(1)(3)		
3	声域を生かし、音の重なりを理解して表現する	(2)	(2)		
4 本時	歌詞と旋律の関わりを考えて表現を工夫する		(1)	(1)	
5	全体で音楽表現の工夫をし、表現に生かす		(2)	(2)	
6	映像や音声で観賞する	(3)			(1)

5 本時の計画

(1) 目標

言葉と音楽の関係を考えながら、歌詞の内容にふさわしい表現を工夫する。

(2) 指導の構想

曲の後半、Cの部分を取り上げる。この部分は水の色々な動きを表わす言葉が続き、歌詞と音楽が結びついている場面である。1つ1つの言葉が、どのようなリズム、構成になっているのかを知り、作曲者の意図を考えさせたい。また、ピアノの動きにも注目させ、言葉を生かした音楽表現の工夫につなげていきたい。

まず、歌詞をよく読み、「落下」「すべり」「けずり」「うずまく」が水のどのような動きを表わしているのかを考え、それぞれの言葉からのイメージをふくらませたい。そして、これらの言葉のリズム、構成、強弱などを楽譜で確認させたい。そしてこの場面にふさわしい音楽表現を考えながら工夫して行きたい。授業の最後には、録音した自分たちの演奏を聴き、どのような演奏になっているのか、客観的に聴き、次の学習につなげていきたい。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
表現の工夫	・ 歌詞と音楽の諸要素とのつながりについて自分の考えを持ち楽譜上で具体的に指摘できる	・ 歌詞と音楽のつながりについて自分の考えを持ち、具体的に指摘できる	・ 拡大譜を使い、注目すべき部分がわかるように提示する
表現の技能	・ 言葉の特性や美しい表現の仕方を身につけている様子が際立って見て取れる。	・ 言葉の特性や美しい表現の仕方を身につけて歌おうとしている	・ 具体的な水の様子を示しながら強調すべき部分を示す。

(4) 展開 (Step 2)

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点・方法
導入 5分	1 既習事項の確認	1 「走る川」を生徒指揮と伴奏で歌う	・前時の学習内容を思い出しながら歌う	
	2 学習事項の把握	2 学習課題を確認する		
展開 40分	学習課題 歌詞を生かした音楽表現を工夫しよう			
	3 課題解決の見通し	3 C部分の歌詞の音読 歌詞の意味の確認 言葉の確認  歌詞と音楽の関わりを考える	・言葉の意味を確認する、 ・水の動きを表わす言葉を取り上げ、どのような動きかを考える ・川の水がどのような動きをしているのか、スピード感や季節感などイメージを具体的にしていく  ・楽譜に注目させ、動きを表わす言葉がどのように音楽とつながっているかを考えさせる ・拡大譜を利用し、印を付けながら確認させる ・ピアノの動きが何を表わしているのか考えさせる	【表現の工夫】 歌詞と音楽のつながりについて考えることができる (発言)
	4 課題の追究	4 歌詞の内容にあった表現を目指して工夫する	・言葉を大切に、わかりやすく伝えることに気をつけながら練習させたい ・歌の動きとピアノ伴奏の動きを関連させながら練習させたい	【表現の技能】 言葉の特性や美しさを生かした表現ができる (演奏場面観察)
	5 課題の解決	5 本時の練習部分を録音する	・歌詞と音楽の関わりを上手く表現できたか考えさせる	
終結 5分	6 学習事項の明確化	6 学習内容を振り返る	・歌詞を生かした音楽表現をすることができた考えさせる	
	7 学習評価	7 自己評価をする		